

(令和3年1月)

種類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	<p>1月の総入荷量は、上旬は寒波による大雪で北海道からの輸送が乱れるなど不安定な入荷となったものの、中旬以降は安定したため前年同月並みであった。総取扱金額は、上旬の高値推移や堅調な家庭内需要等により12%上回った。今後は、寒波や干ばつの影響で停滞していた生育が回復し安定した入荷が見込まれ、価格は暖冬で安値傾向となった前年より上回ることが予想される。</p> <p>2月は、近郷野菜では、かぶや丸だいこん等の漬物商材が終盤となり、はたけ菜が最盛期を迎える。果実では、伊予かんや不知火等の中晩柑類が増える。</p>
野 菜	<p>野菜全般の入荷量は前年同月並みであったが、単価は不安定な入荷となった上旬に高値で推移した品目が多くなったことなどから8%上回った。</p> <p>根菜類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は不安定な入荷となった上旬に高値で推移したため26%上回った。</p> <p>葉菜類の入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は24%上回った。</p> <p>果菜類の入荷量は前年同月比で9%上回り、単価は16%下回った。</p> <p>土物類の入荷量は中旬以降の安定した入荷により前年同月比で6%上回ったが、単価は不安定な入荷となった上旬に高値で推移したため31%上回った。</p>
果 実	<p>果実全般の入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。</p> <p>かんきつ類の入荷量は前年同月比で10%上回り、単価は3%下回った。</p> <p>りんご類の入荷量は産地からの輸出が回復したため前年同月比で13%下回ったが、単価は下位等級品の割合が高かったため4%下回った。</p> <p>いちご類の入荷量は前年同月比で36%上回り、単価は17%下回った。</p>

	メロン類の入荷量は生産量減少の影響等により前年同月比で19%下回ったが、単価は下位等級品の割合が高かったため42%下回った。
--	--

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長だいこん	鹿児島、長崎、徳島を中心に和歌山、香川などからも入荷した。入荷量は前年同月比で3%上回ったが、単価は需要が高かつたため29%上回った。
西洋にんじん	鹿児島を中心に長崎、愛知、鳥取、熊本などからも入荷した。入荷量は前年同月比で6%上回ったが、単価は不安定な入荷となつた上旬に高値で推移したため37%上回った。
【葉菜類】	
はくさい	茨城、兵庫、鹿児島、滋賀、和歌山などから入荷した。入荷量は暖冬であった前年に比べて5%下回ったが、単価は前年同月並みであつた。
キャベツ	愛知を中心に茨城、鹿児島、滋賀、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で14%下回り、単価は56%上回った。
ほうれんそう	京都、福岡を中心に茨城、鳥取、滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で22%下回り、単価は27%上回った。
レタス	兵庫、熊本、徳島、長崎、愛媛などから入荷した。入荷量は前年同月比で9%下回り、単価は14%上回った。
【果菜類】	
きゅうり	宮崎を中心に高知、徳島、滋賀、佐賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で15%上回り、単価は35%下回った。

なす	高知、岡山から入荷した。入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。
とまと	熊本を中心に福岡、佐賀、三重、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で7%上回り、単価は12%下回った。
ピーマン	宮崎を中心に高知、韓国、鹿児島などからも入荷した。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は11%下回った。
【土物類】	
ばれいしょ (マークイン含む)	北海道を中心に長崎、鹿児島などからも入荷した。入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は169%上回った。
たまねぎ	北海道を中心に静岡、兵庫などからも入荷した。入荷量は中旬以降の潤沢な入荷により前年同月比で23%上回ったが、単価は3%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん	和歌山を中心に福岡、大分、岩手などからも入荷した。入荷量は前年同月比で13%上回り、単価は6%下回った。
伊予かん	愛媛から入荷した。入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。
富士 (サン富士含む)	青森を中心に岩手、秋田、長野からも入荷した。入荷量は産地からの輸出が回復したため前年同月比で19%下回ったが、単価は下位等級品の割合が高かったため5%下回った。
王林	青森を中心に秋田からも入荷した。入荷量は小玉傾向となつたため前年同月比で3%下回り、単価は6%上回った。
いちご	福岡、熊本、大分、佐賀、長崎などから入荷した。入荷量は前年同月比で36%上回り、単価は17%下回った。
アールスメロン	静岡、オーストラリア、高知、ホンジュラスから入荷した。入荷量は生産量減少の影響等により前年同月比で24%下回ったが、単価は下位等級品の割合が高かったため41%下回った。